

「安全性」無視、「いのち」軽視の 大飯原発の再稼動は許せません

政府は、関西電力大飯原発の3、4号機の再稼動問題について、「安全性」「必要性」が「確認」されたとして、再稼動を認める方針を決定しました。また、それを受けて関西電力は、早速再開準備に入ったといえます。

しかし、これほど無謀な決定はありません。

地震の揺れによる事故発生は重大問題

第一に、福島第一原発事故の原因究明は、いまだに未解明の状態です。政府や東電は事故の原因をもっぱら「津波」のせいにしていますが、津波の前に地震の揺れで細管が破断するなどして、既に事故が発生していたという指摘があります。しかし、現場は放射能が強くて中にも入れず、確認もできていません。

いま日本列島は地震の活性期に入ってきています。地震によって原発事故が発生していたとしたら、それは原子炉の基本構造に関わる重大問題です。そんな重大問題が解明されていないのに、「安全性」が確認できたなどと言えるはずがありません。

机上の計算、数年先の計画はOKじゃね

さらに「安全性」の審査も、ストレステストはコンピュータ・シミュレーションによる机上の計算だけです。安全対策についても、例えば福島原発事故で重要な役割を果たした免震事務棟の設置は3年先の2015年のことです。他にも、フィルター付きベント装置の設置、堤防のかさ上げ(5m→8m)、常設非常用発電機の設置もすべて3年先のことです。

琵琶湖の水が放射能で汚染されれば、近畿一四五〇万人の飲み水が一気になくなりますが、そんなときの対策も何一つありません。まさに「いのち」軽視です。

運転再開の話は、これらすべての工程が完了し、課題がクリアしてからにすべきではないでしょうか。

知恵を出せば乗り切れる夏の電力

いわゆる「電力不足」問題にしても、問題になるのは夏の最も暑い日の気温ピーク時だけのことです。揚水発電、水力発電や一時的には火力発電の活用、電力他社からの融通、企業の操業調整や自家発電の活用、そして、国民的な節電・省エネ運動などを組み合わせれば、十分乗り切れる話です。「大飯原発の再稼動しなければ、深刻な電力不足が生じる」は、正に「脅迫」による原発再稼動の押しつけです。

私たちは、原発問題で最も重要な「完全性」の問題を無視し、財界の要望、「経済」優先の大飯原発の再稼動に断固反対し、その撤回を強く求めます。

野田首相・大阪府知事・大阪市長・関西電力社長に「大飯原発の再稼動をするな」
「原発の稼動ゼロでこの夏を乗り切るために全力をあげよ」の声を集中しましょう！

原発をなくし、自然エネルギーを推進する大阪連絡会（略称：原発ゼロの会・大阪）
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19 内本町松屋ビル10 370号
電話 06-6949-8120 FAX06-6949-8121 HP <http://genpatsuzero-osaka.com/>